

2017. 6. 7

歴史民俗資料館だより No.119

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

戦時中のくらし展

会 期 6月15日(木) ~ 8月20日(日)

展示品 貨幣・紙幣・切手・軍事郵便葉書・手製の教科書・大東亜戦争世界要図・旭日旗寄せ書き・防空頭巾・もんぺなど約 200 点

昭和 12(1937)年の日中戦争勃発以降、第2次世界大戦へと向かい、日本は、戦時体制へと突入していきました。

そして長崎は、昭和 20(1945)年8月9日に原子爆弾が投下され、約24万人の市民の半数以上が死傷するという悲惨な被害を受けました。

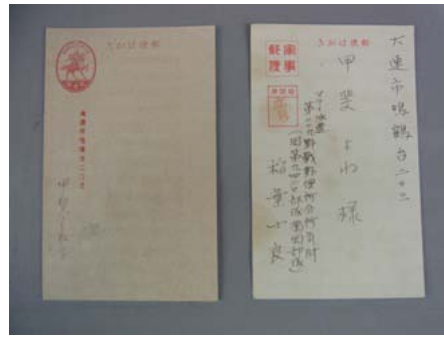
その当時、人々は様々な統制を強いられ、「ほしがりません勝つまでは」と質素、儉約のくらしをしなければなりません。日常生活に必要な物も手に入りやすく代用品や代用食がさかんにつくられました。

現在の豊かな生活と対比し、平和の尊さを考える機会として、このたび当館では「戦時中のくらし展」を開催いたします。

今回の展示に際しまして、貴重な資料をご寄贈、ご提供いただきました山本瑩子様をはじめ、多くの市民の皆様と関係者各位に深く御礼申し上げます。



産衣
産衣には、昭和 15 年に結ばれた日独伊三国同盟国や戦争にちなんだ図柄が描かれています。



軍事郵便葉書 (昭和 19 年)
マライ派遣部隊の兄から大連に住んでいる妹へ出産祝い金を送ったことを記した葉書です。



戦時郵便貯金切手
金貳圓 昭和 18 年

戦時貯蓄債券
金拾五圓 昭和 19 年

多額の戦費調達のために、政府は各種国債を発行しました。



国防・防護団の記章

昭和 11 (1936) 年、戦時または事変に際し、警備・防空の必要に備える為、市内各種団体による市防護団がつけられました。翌年、国防婦人会長崎市支部ができました。



雑嚢・水筒
旧陸軍兵士の三十キログラム以上の装備の内の一部です。



紙芝居

オコメ 昭和16年

少女を通して勤労の尊さ、お米のありがたさを知らせようとしています。



旭日旗寄せ書き

出征兵士のために、友人、関係者から武運長久を祈願して寄せ書きされたものです。



軍用手票

戦地、占領地で兵士が通貨の代用として使用した手形です。昭和15(1940)年の10円札と昭和19(1944)年の100円札です。



紙製投砂弾

砂約一升を入れ、本投砂弾を投げれば、理想的に破れ、砂が飛び出しますから、とっさの場合に消火の目的を達します。



恩賜の煙草

戦場で兵士が天皇陛下からいただきました。「賜」の文字の箱の中に日本専売公社製で菊の御紋の付いた煙草10本が収められています。



防空頭巾ともんぺ

戦時中、空襲から頭部を保護するための防空頭巾と動きやすいもんぺは欠かせないものとなりました。



エマル消火弾・陶製防砂袋
昭和19年8月11日に長崎は米軍のB-29爆撃機で初めて空襲を受けました。そしてこれらの消火器具は各家庭に常備されました。